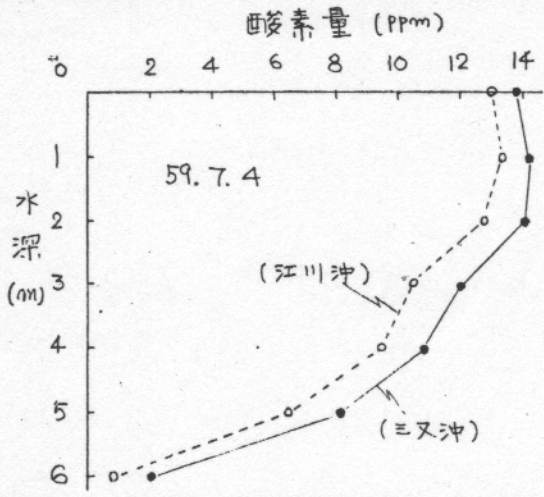


酸欠観測 始まる

今年も六月中頃から霞ヶ浦と北浦で、酸欠観測を行なっています。

図は七月四日の三又沖と江川沖の酸素の状態を示したものです。



測定日の七月四日は、風のない穏やかな日でしたが、これは

うは、風のない日には、すぐ

底層の酸素が少なくな

り、図のような状態になり

ます。また、曇り空で、風

の弱い日が続きますと、

底層の酸素のない部分

が多くなって、やがては上

層も底層も、酸素が少な

い危険な状態となります。

“北東の風”に注意

北東の風が吹き始めると、

途端に漁場内の酸素が

急くなることは、皆さん既

にご承知のことと思いま

す。その原因については、調

べていますが、一つには、気温

の低い北東の風によって、水

温が低下すること。また、大

部分の漁場が風上側に仕

置しているために、アオコ

が風下側に吹き寄せられ

酸素を作り出すアオコが

なくなる。酸素の少な

い底水が上、て来やすく

なること等が考えられます。

水の中の酸素がなくなる

「くみ」については、まだ良く

判っていません。しかし、この

二つの場合が多いようです。

この水からの時期は、酸素

が何時なくなっても不思議

ではありません。コイの

状態に十分注意しましょう。

ワカサギの試験曳き

ワカサギの試験曳きが、七

月十一日に霞ヶ浦北浦で
行われまゝした。

◆霞ヶ浦◆

高浜入り、土浦入り、湖心

部の三水域で実施し、ニ

分曳き平均で、ニ七kgの

漁獲量がありました。これ

は、試験曳きが開始された、四十

五年以来の最高で、今年は

干トン以上の豊漁が見込ま

れます。この原因として、化糞

仔魚期の餌が豊富で、歩留

りがよかつたためと思われ

◎北浦◎

帆津倉、江川、水原沖の三

水域で行いました。この方

曳き、平均でニ十三kgで

この結果からしますと、今

年は平年並みの約二百

五トンと予測しています。

試水内